

- 乳用育成牛を公共牧場へ預託することにより利用農家の労働時間の軽減等が図られ、生産コスト軽減、所得向上につながる。
- 近年の家畜増頭に伴い、預託頭数も増加傾向にあり、施設整備の必要性が急務である。
- 飼料生産基盤の整備により、単位収量は40%向上する。公共牧場の牧養力向上により預託受入頭数を夏期200頭増、冬期600頭増とし、地域の畜産経営の安定化を図る。

1 目 的

・本地区では戸当たり経営面積・飼養頭数の増大に伴う労働の効率化が課題となる地域において、牧場の預託可能頭数を上回る牧場利用者の預託要望があり、公共牧場の整備が強く望まれている。
 ・地域の課題を解消するため、公共牧場の草地基盤整備と利用施設整備を一体的に行うことで、地域が望む公共牧場の機能強化を図る。
 ・これにより、牧場利用農家の労働力が軽減され、経営規模拡大が進む地域の酪農経営の安定化を目指す。

- 関係市町村：北海道上川郡清水町
- 事業主体：北海道
- 事業実施期間：平成31～令和6年度
- 受益面積：406.8ha
- 事業参加者：清水町
- 整備内容：草地整備改良 392.3 ha、草地造成改良 14.5ha
 草地等の基盤整備改良 1ヶ所、家畜保護施設 3棟
 飼料調整貯蔵施設 3基、家畜排せつ物処理施設 2基
 牧場用機械施設整備 12台

事業実施による効果

		現況	計画	増加割合	
牧場利用農家数		50	50	0%	
牧草収量		2.7 t/10a	4.5 t/10a	40%	
家畜預託頭数	夏期	乳用	2,200	2,400	8.3%
		肉用	—	—	—
	冬期	乳用	616	1,216	49%
		肉用	—	—	—
利用農家飼料自給率		37.8%	39.5%	1.7%	



事業の必要性



ほ場の起伏・排水不良

排水不良・ほ場の凹凸
↓
作業性悪化、収量減



作業機械の大型化

事業の概要・事業の効果

公共牧場基盤の強化

牧場機械作業の効率化・牧場利用農家の労働力軽減

ほ場条件の好転による機械作業等の効率化や収量増大が図られる。



施設整備により、牧場の預託可能受け入れ頭数の増大が図られる。

牧場利用農家の飼養頭数の一部を預託することで、農家の営農労力軽減が図られる。

